

算 数 科 学 習 指 導 案

単元名「単位量当たりの大きさ」〔学習指導要領：C（2）〕

令和6年11月 5年 指導者 武井 幸子

I 単元の構想

1 単元の目標及び児童の実態

	目 標	児童の実態
知識及び技能	・異種の二つの量の割合として捉えられる数量について、その比べ方や表し方、単位量当たりの大きさについて理解している。また、異種の二つの量の割合として捉えられる数量を求めることができ、比べたり表したりすることができる。	・数直線図を活用して1L当たりの値段を比べることはできる。しかし、わる数とわられる数の理解が十分でない児童が数名いる。
思考力、判断力、表現力等	・異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察し、それらを日常生活に生かすことができる。	・二つの量が異なるものを比べるときは、どちらかの量に揃えて考えることができる。立式や答えの根拠を明確にして友達に伝えることに不安のある児童もいる。
学びに向かう力、人間性等	・異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、単位量当たりの大きさを用いて比べることのよさに気づき、学習したことを生活や学習に活用しようとしている。また、単位量当たりの大きさを活用できる場面を身の回りから見付けようとしている。	・身近な問題場면을提示すると、自分事と捉えることができ、問題解決に向けて意欲的に取り組むことができる。学習したことを生活や学習に活用しようとする児童はまだ多くない。

2 評価規準

知識・技能	①異種の二つの量の割合として捉えられる数量について、その比べ方や表し方について理解している。 ②単位量当たりの大きさについて理解している。 ③異種の二つの量の割合を捉える速さや人口密度などを比べたり表したりすることができる。
思考・判断・表現	①異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じた、大きさの比べ方や表し方を考えている。 ②日常生活の問題（活用問題）を、単位量当たりの大きさを活用して解決している。
主体的に学習に取り組む態度	①異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、単位量当たりの大きさを用いて比べることのよさに気づき、学習したことを生活や学習に活用しようとしている。 ②単位量当たりの大きさを活用できる場面を身の回りから見付けようとしている。

3 指導及び評価、ICT 活用の計画（全5時間 本時第2時） ※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

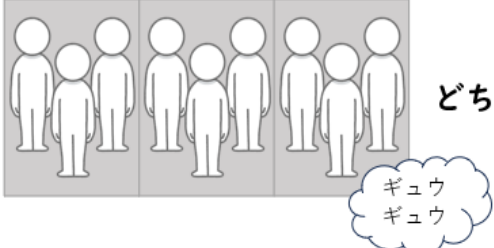
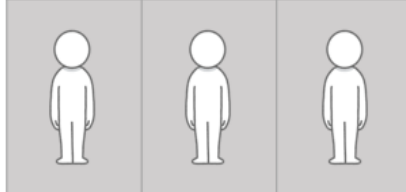
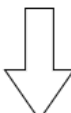
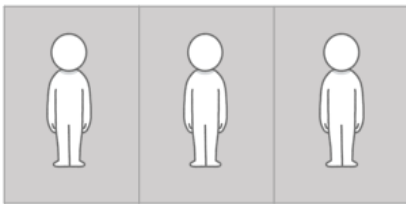
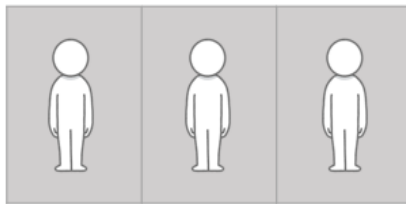
時	学習活動	知	思	態
1	・人数とカーペットの枚数がそれぞれ違う部屋の混み具合の比べ方を考え、一番混んでいる部屋を求める。 <div>単元の課題 単位量当たりの大きさを使って、二つのものを比べてみよう。</div>		①	①
2	・単位量当たりの大きさを基にして、コピー機のコピーする速さを求めて比べる。	①	●	●
3	・単位量当たりの大きさを基にして、面積と人口から混み具合を求めて比べる。	②		
4	・人口密度の意味を知る。 ・身の周りから単位量当たりの大きさが使われているものを見付ける。 ・学習したことを使って、練習問題に取り組む。	③	●	●
5	・単元テスト	① ② ③		

*活用する学習支援ソフト等：(あ) ロイロノート (い) デジタルコンテンツ

Ⅱ 第1時の学習（1／5）

- ねらい 三つの部屋の混み具合を比べる活動を通して、人数とカーペットの枚数の関係に着目して比べ方を考え、混んでいる部屋を判断できるようにする。

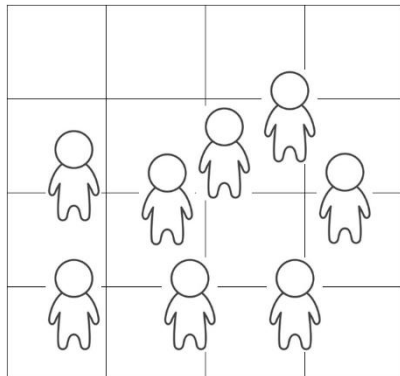
2 展開

主な学習活動 予想される児童の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
1 新聞紙を使った体験活動を通して、「混んでいる」の意味を確認する。 （導入①3分）	
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 20px 0;">  <p>ならすと…</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>	
<p>S：人が集まっているほうが混んでいると思う。</p> <p>S：でも、ならして右側と同じようにすると同じかもしれない。人数だけでは決まらないのかな。</p>	<p>◎児童が実感を伴って問題に取り組みたいと思えるように、新聞紙を使って混み具合を体感する。</p> <p>○「混んでいる」という場面を共通理解できるように、3枚の新聞紙を二組用意し、片方には1枚に三人ずつ、もう片方には1枚に一人ずつ乗り、混んでいるのはどちらか問い掛ける。</p> <p>○「混んでいる」は、人数だけで判断できないことに気付けるように、片方には1枚に三人、もう片方には1枚に一人ずつ乗り、混んでいるのはどちらか問い掛ける。その後、人数をならした場面を作り、再度混んでいるのはどちらか問い掛ける。</p> <p>○「1枚に一人ずつ乗っている」や「一人1枚ずつになっている」に気付けるように、混み具合が同じだと思う理由を問い掛ける。</p>

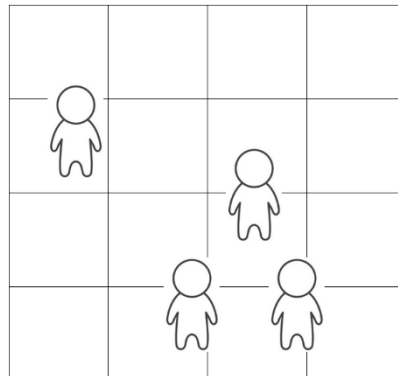
2 三つの部屋の混み具合を比べる方法を考え、本時のめあてを設定し、解決の見通しを立てる。(★)
(導入②10分)

<問題場面>

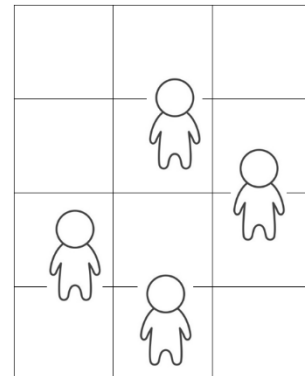
どの部屋が一番混んでいるかな？



A室



B室



C室

S：まず、AとBを比べて、次に、BとCを比べる。

S：それから、AとCを比べる。

○二つを比較する視点（人数とカーペットの枚数）をもつことができるように、「まずどうするか」「次にどうするか」と問い掛ける。

○人数とカーペットの枚数に着目できるように、混んでいると考えた理由を問い掛け、表に整理していく。

○BとCの混み具合を比較する際、一人当たりの枚数が違うことに気付けるように、操作できる図をロイロノートで配付する。

○AとBは1枚当たりの人数が違うことに気付けるように、BとCを比較したときとの違いを言語化するとどう表すことができるか問い掛ける。

<めあて>

人数と枚数が違うときは、どうすれば比べられるのだろうか。

S：公倍数を使うと比べられる。一人当たりのカーペットの枚数やカーペット1枚当たりの人数でも比べられそうだ。

○単位量当たりの大きさに意識が向くように、公倍数の考え方は、口頭での全体確認のみとする。

3 A室とC室の混み具合を比べる方法を考える。
(展開20分)

①一人当たりのカーペットの枚数を求める。

A $16 \div 8 = 2$ 一人当たり2枚

C $12 \div 4 = 3$ 一人当たり3枚

一人当たりの枚数が少ないからAが混んでいる。

②カーペット1枚当たりの人数を求める。

A $8 \div 16 = 0.5$ 1枚当たり0.5人

C $4 \div 12 = 0.333\cdots$ 1枚当たり約0.3人

カーペット1枚当たりの人数が多いからAが混んでいる。

○考えが整理しやすいように、まずは一人当たりの枚数で比べてみるように伝える。

○一人当たりのカーペットの枚数やカーペット1枚当たりの人数を求める際に、AとCを並べて記入しやすいようにワークシートを配付する。

○論理的な思考ができるように、計算だけでなく、判断した理由も記入することを伝える。

○混んでいると判断した理由も伝えられるように、計算で求めた数字が何を表しているか考えるよう促す。

○一人当たりのカーペットの枚数を求めた児童が判断に迷っている場合は、体感的に「混んでいる」が判断できるように、新聞紙に乗って考えてみるよう促す。

◎悩んだり困ったりしている児童がいる場合は、考え方を相談してよいことを伝える。

	<p>○カーペット1枚当たりの人数を使った比較が理解しやすいように、AとBの問題場面図を提示し、枚数が同じときは人数が多いほうが混んでいることを確認する。</p> <p>○人口密度につなげられるように、多いほうが混んでいると判断できるカーペット1枚当たりの人数で求めることが多いことを伝える。</p> <div data-bbox="831 400 1425 580"> <p>◆評価項目</p> <p>人数とカーペットの枚数の関係に着目して比べ方を考え、混んでいる部屋を判断している。＜ノート・発言（思①）＞</p> </div>
<p>4 学習内容を振り返り、単元の課題を立てる。 （終末12分）</p>	<p>○「一人当たりのカーペットの枚数」や「カーペット1枚当たりの人数」を「単位量当たりの大きさ」ということを伝える。</p> <p>○児童の言葉で学習したことがまとめられるように、めあてを確認する。</p> <div data-bbox="831 806 1425 1014"> <p>◆評価項目</p> <p>異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、単位量当たりの大きさを用いて比べることのよさに気付いている。＜ノート・発言（態①）＞</p> </div>
<div data-bbox="177 1055 1417 1155"> <p>＜まとめ＞</p> <p>単位量当たりの大きさを使えば、比べることができる。</p> </div>	
<p>S：値段はBのほうが安いけど冊数が少ないから、一冊当たりの値段で比べるといいかも。</p> <div data-bbox="177 1330 791 1469"> <p>＜単元の課題＞</p> <p>単位量当たりの大きさを使って、二つのものを比べてみよう。</p> </div>	<div data-bbox="839 1167 1417 1305"> <p>問題</p> <p>Aのノートは10冊で1200円、Bのノートは8冊で1000円です。</p> </div> <p>○単位量当たりの大きさを使って比べることができるのかと疑問をもって単元の課題が立てられるように、教科書の問題の解決の見通しを立てる。</p>
<div data-bbox="177 1491 1417 1621"> <p>＜振り返り＞</p> <p>S：単位量当たりの大きさを使うと、どんなものが比べられるかな。</p> <p>S：「何当たりの何」を使って考えるのか。</p> </div>	

3 板書計画

単位量当たりの大きさ

⑩ どの部屋が一番混んでいるかな？

	人数	枚数	混んでいる
AとB	⑧ 8と4	16 (同じ)	A
BとC	4 (同じ)	16と12 ⑨	C
AとC	8と4	16と12	??

⑪ 人数と枚数が違うときは、どうしたら比べられるのだろうか？

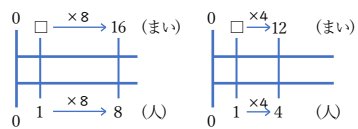
- 人数を同じにする
- 枚数を同じにする
- 一人当たりの枚数
- 1枚当たりの人数

- ・図
- ・式
- ・数直線

⑫

「単位量当たりの大きさ」を使えば比べられる

一人当たりの枚数



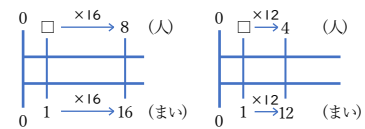
$$\begin{aligned} \square \times 8 &= 16 & \square \times 4 &= 12 \\ \square &= 16 \div 8 & \square &= 12 \div 4 \\ \square &= 2 & \square &= 3 \end{aligned}$$

一人当たり 2 枚 一人当たり 3 枚

⑬ 少

一人当たりの枚数が少ないから
A が混んでいる。

1枚当たりの人数



$$\begin{aligned} \square \times 16 &= 8 & \square \times 12 &= 4 \\ \square &= 8 \div 16 & \square &= 4 \div 12 \\ \square &= 0.5 & \square &= 0.33\cdots \end{aligned}$$

1枚当たり 0.5 人 1枚当たり 約 0.3 人

⑭ 多

1枚当たりの人数が多いから
A が混んでいる。


単元の課題

「単位量当たりの大きさ」を使って二つのものを比べてみよう

Ⅱ 第2時の学習（2／5）

- ねらい 三つの県の混み具合やコピー機の仕事の速さを比べる活動を通して、数量の関係をもとに単位量あたりとするほうを決め、目的に応じた比べ方や表し方を考えている。

2 展開

主な学習活動 予想される児童の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
	◎児童が学び方を選択しやすいように、学び方の例や悩んだときや困ったときの行動例を掲示する。
1 前時の学習を振り返り、単位量当たりの大きさを理解する。（★） （導入①5分） S：1人当たりの枚数を求めれば比べられた。 S：単位量当たりの大きさを使えば求められた。	○「単位量当たりの大きさ」の意味が十分理解できるように、前時の板書を活用して、異なる二つの量に着目したこととどちらかを揃えようとしたことを確認する。 ○単位とする量によって比べ方が異なることに気付けるように、1枚当たりの人数で比べることもできることを伝える。
2 本時のめあてを設定し、問題解決の見通しを立てる。（★） （導入②10分）	
<div><問題> <div>青 下の図は、群馬県と栃木県と茨城県の面積と人口を表したものです。 どの県が一番こんでいますか。</div><div><div>人口 195万人 面積 6300km²</div><div>群馬県</div><div>栃木県</div><div>茨城県</div><div>人口 195万人 面積 6400km²</div><div>人口 290万人 面積 6100km²</div></div></div>	<div>赤 同じねだんのコピー機A、Bがあります。 Aのコピー機では、15分で270まいコピーできます。 Bのコピー機では、6分で120まいコピーできます。 どちらのコピー機を買うとお得ですか。</div> <div></div>
S：群馬と栃木は、人口が同じで面積が狭い群馬が混んでいる。だから、群馬と茨城を比べれば答えが出せそう。 S：お得なコピー機は、同じ時間でたくさんコピーできるほうだと思う。でも、同じ枚数を短い時間でコピーできるでも比べられそう。	○児童が自分のペースで問題を読めるように、ロイロノートで問題を配付する。 ◎追究の場面で学び方の一つとして教科書で調べることができるように、問題が載っている教科書のページを伝える。人口密度の問題は、提示している県の設定が教科書と違うことも伝える。 ○青の問題で、まず群馬と栃木に着目させ、混んでいると判断した理由が言えるようにする。 ○青の問題で、群馬と茨城は、1人当たりの面積以外に1km ² あたりの人数でも比べられることに気付けるように、前時の復習で扱った「1枚あたりの人数」を取り上げる。 ○赤の問題で、お得なコピー機とはどのようなものかを問い掛け、「一分当たりの枚数」「1枚あたりにかかる時間」という単位量当たりの大きさに気付けるようにするよう。 ◎時間の見通しがもてるように、25分間で2問を全員が解き終えるように進めていくよう伝える。
<めあて> 単位量当たりの大きさを使って比べることができるかな。	


<p>3 それぞれの学び方で問題を解く。(★) (展開 25 分)</p> <p>S : 前回の混み具合の問題に似ているから、最初に青の問題を解こう。</p> <p>S : 教科書に出てくるのが早い、赤の問題からやってみよう。</p>	<p>○前時でも使用した数直線や式をかいいて考えるワークシートを配付し、必要に応じて使うように伝える。</p> <p>○自分の考えをもって対話ができるように、最初に取り組み問題を選び、個別解決の時間を取る。</p> <p>◎学び方を自己決定できるように、個別解決の時間を取った後、初めに取り組み問題と学習状況や形態(教えてほしい、一人で考える、説明できるなど)をロイロノートのカードで送るよう伝える。</p> <p>◎問題解決に向けた対話になるように、学習が進んだり状況が変わったりしたらカードを更新するように伝える。</p> <p>◎問題解決につながる意図的な対話になるように、カードを見て相談したり説明したりする相手を選ぶように促す。</p>
<p>◎ア : 一人で考えている児童</p> <p>○思考が行き詰まっている児童には、どこまで分かって何が分からないかを問い掛け、学び方(誰かと相談する、先生と一緒に考える、教科書で調べる)を選択できるように言葉掛けする。</p> <p>○問題が解けた児童には、同じ問題に取り組んでいる児童と解き方の説明をしたり、答えを判断した理由の確認をしたりするよう促す。</p> <p>○答え合わせや直しが終わった児童には、まだ考えがまとまらない児童への説明や解決のポイントを考えてみるよう促す。</p> <p>○数直線を使わずに立式している児童には、数直線を書いて式が正しいかを確認してみるよう促す。</p>	
<p>◎イ : 一人で教科書などを見ながら考えている児童</p> <p>○調べたことを写しただけにならないように、どのように考えて式を立てたか問い掛ける。</p> <p>○解き方を確かなものにするために、調べて分かったことを友達に説明してみるよう促す。</p> <p>○思考が行き詰まっている児童には、悩んでいることや分からないことを他の児童と相談してみるよう助言する。</p> <p>○問題が解けた児童には、同じ問題に取り組んでいる児童と解き方の説明をしたり、答えを判断した理由の確認をしたりするよう促す。</p>	
<p>◎ウ : ペアで相談している児童</p> <p>○一方的な考えの説明にならないように、相手の考えと自分の考えを比較しながら話を聞き、自分の考えを伝えるよう助言する。</p> <p>○ノートを見せ合うだけにならないように、どう考えたかを互いに説明し合うように助言する。</p> <p>○話し合いが行き詰まっている姿が見られたら、他のグループや説明ができる児童の考えも聞いてみるように促す。</p> <p>○他のペアやグループで考えている児童にも考えたことが伝わるか説明してみるように促す。</p>	
<p>◎エ : グループで相談している児童</p> <p>○一方的な考えの説明にならないように、仲間の考えと自分の考えを比較しながら話を聞き、自分の考えを伝えるよう助言する。</p> <p>○ノートを見せ合うだけにならないように、どう考えたかを互いに説明し合うように助言する。</p> <p>○話し合いに参加できていない児童がいた場合は、グループ内で参加を促すような行動ができるように、児童同士をつなぐような言葉掛けをする。</p> <p>○話し合いが行き詰まっている姿が見られたら、他のグループや説明ができる児童の考えも聞いてみるように促す。</p> <p>○他のペアやグループで考えている児童にも考えたことが伝わるか説明してみるように促す。</p>	

	<p>○自分で選んだ比べ方とは違う立式になっている児童には、数直線をどのように見たかを問い掛け、数直線の見取り方が理解できているか確認する。</p> <p>◎児童が自分のタイミングで答え合わせ・直しができるように、答えコーナーを設置する。</p> <p>◎問題解決に向けて主体的に動けるように、黒板に解決のポイントを掲示する。</p> <p>◎考え方が広がったり深まったりするように、児童の活動の様子を見取り、同じ考えで取り組んでいる児童や別の考えで取り組んでいる児童につなげる言葉掛けをする。</p> <p>○2問解き終わった児童には、もう一つの比べ方で解いてみるように促す。</p>
	<p>◆評価項目</p> <p>数量の関係をもとに単位とするほうの量を決め、目的に応じた比べ方や表し方を考えている。</p> <p><ノート(思①)></p>
	<p>◆評価項目</p> <p>異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、単位量当たりの大きさを用いて比べることのよさに気付いている。<ノート・発言(態①)></p>
<p>4 本時の学習を振り返る。(★) (終末5分)</p>	<p>○本時の学びが意識できるように、「どんな風に取り組んだら何がわかったか・できたか」に視点を当てた振り返りをし、ロイロノートで提出するよう伝える。</p>
<p><振り返り></p> <p>S：数直線が難しかったけど、友達から数直線のかき方を教わったら分かった。</p> <p>S：赤の問題を何で比べるかをみんなで相談した。二通りの比べ方があったけど、一分当たりの枚数で比べるのが分かりやすかった。</p>	

3 板書計画

① 青

下の図は、群馬県と栃木県と茨城県の面積と人口を表したものです。どの県が一番広いかわかりますか。



県	人口	面積
群馬県	195万人	6300km ²
栃木県	195万人	6400km ²
茨城県	290万人	6100km ²

群馬と栃木は人口が同じで面積が狭いから群馬が混んでいる

群馬と茨城を比べたい！

1人当たりの面積 (km²)


1km²当たりの人数 で比べられる？

お助けカード

青

② 赤

同じねだんのコピー機A、Bがあります。Aのコピー機では、15分で270まいコピーできます。Bのコピー機では、6分で120まいコピーできます。どちらのコピー機をかうとお得ですか。



お得なコピー機→たくさんコピーできる

速くコピーできる

1分当たりの枚数

1枚当たりにかかる時間 で比べられる？

お助けカード

赤

③ め

単位量当たりの大きさを使って比べられるか。

Ⅱ 第3時の学習（3／5）

- ねらい 人口密度や収穫量を比べる活動を通して、数量の関係をもとに単位量あたりとするほうを決め、目的に応じた比べ方や表し方を考えている。

2 展 開

主な学習活動 予想される児童の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
<p>1 前時の学習を振り返り、本時の見通しを立てる。 （★）（導入3分）</p> <div data-bbox="172 533 790 669" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>＜めあて＞ 単位量あたりの大きさを使って比べることができるかな。</p> </div>	<p>◎学習状況カードに意識が向くように、前時の最終状況を提示して確認する。最終状況が更新されていない場合は、更新するよう伝える。</p> <p>◎意図的な交流が起こるよう、一つの比べ方で解けたら違う比べ方で解いている児童と理由や答えを見比べてみるように伝える。</p>
<p>2 それぞれの学び方で問題を解く。（★） （展開①15分）</p> <p>S：自分が解いた比べ方とは違う比べ方で解いている子と話をしてみよう。</p>	<p>◎問題解決に向けた対話になるように、学習が進んだり状況が変わったりしたらカードを更新するように伝える。</p> <p>◎問題解決につながる意図的な対話になるように、カードを見て相談したり説明したりする相手を選ぶように促す。</p> <p>◎判断の理由が考えやすくなるように、理由の考え方を復習コーナーとロイロノートで提示する。</p>
<p>◎ア：一人で考えている児童</p> <p>○思考が行き詰まっている児童には、どこまで分かって何が分からないかを問い掛け、学び方（誰かと相談する、先生と一緒に考える、教科書で調べる）を選択できるように言葉掛けする。</p> <p>○問題が解けた児童には、同じ問題に取り組んでいる児童と解き方の説明をしたり、答えを判断した理由の確認をしたりするよう促す。</p> <p>○丸付けや直しが終わった児童には、まだ考えがまとまらない児童への説明や解決のポイントを考えるよう促す。</p> <p>○数直線を使わずに立式している児童には、数直線を書いて式が正しいかを確認してみるよう促す。</p>	
<p>◎イ：一人で教科書などを見ながら考えている児童</p> <p>○調べたことを写しただけにならないように、どのように考えて式を立てたか問い掛ける。</p> <p>○解き方を確かなものにするために、調べたて分かったことを友達に説明してみるよう促す。</p> <p>○思考が行き詰まっている児童には、悩んでいることや分からないことを他の児童と相談してみるよう助言する。</p> <p>○問題が解けた児童には、同じ問題に取り組んでいる児童と解き方の説明をしたり、答えを判断した理由の確認をしたりするよう促す。</p>	
<p>◎ウ：ペアで相談している児童</p> <p>○一方的な考えの説明にならないように、相手の考えと自分の考えを比較しながら話を聞き、自分の考えを伝えるよう助言する。</p> <p>○ノートを見せ合うだけにならないように、どう考えたかを互いに説明し合うように助言する。</p> <p>○話し合いが行き詰まっている姿が見られたら、他のグループや説明ができる児童の考えも聞いてみるように促す。</p> <p>○他のペアやグループで考えている児童にも考えたことが伝わるか説明してみるように促す。</p>	

◎エ：グループで相談している児童

○一方的な考えの説明にならないように、仲間の考えと自分の考えを比較しながら話を聞き、自分の考えを伝えるよう助言する。

○ノートを見せ合うだけにならないように、どう考えたかを互いに説明し合うように助言する。

○話し合いに参加できていない児童がいた場合は、グループ内で参加を促すような行動ができるように、児童同士をつなぐような言葉掛けをする。

○話し合いが行き詰まっている姿が見られたら、他のグループや説明ができる児童の考えも聞いてみるように促す。

○他のペアやグループで考えている児童にも考えたことが伝わるか説明してみるように促す。

S：一つの問題で二つの比べ方があるけど、答えはどちらも同じなのに、理由は違うのか。

○自分で選んだ比べ方とは違う立式になっている児童には、数直線をどのように見たかを問い掛け、数直線の見取り方が理解できているか確認する。

◎児童が自分のタイミングで答え合わせ・直しができるように、答えコーナーを設置する。

◎問題解決に向けて主体的に動けるように、黒板に解決のポイントを掲示する。

◎考え方が広がるように、児童の活動の様子を見取り、同じ考えで取り組んでいる児童や別の考えで取り組んでいる児童につなげる言葉掛けをする。

◆評価項目

数量の関係をもとに単位とするほうの量を決め、目的に応じた比べ方や表し方を考えている。
<ノート（思①）>

◆評価項目

異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、単位量当たりの大きさを用いて比べることのよさに気付いている。<ノート・発言（態①）>

3 人口密度の定義を知り、問題に取り組む。（★） （展開②15分）

<問題>



○青の問題で、一人あたりの面積と1 km²あたりの人数のどちらが判断しやすかったかを確認し、人口密度の定義を伝える。

○人口密度を使った比べ方が理解できるように、教科書の問題に取り組むよう伝える。

◎困ったときは、掲示してある学び方を見てどう行動するかを選ぶよう助言する。

4 本時の学習をまとめ、適用問題に取り組む。(★)
(終末 12 分)

○児童の言葉で学習したことがまとめられるように、めあてを確認する。

<まとめ>

二つのものを比べる問題は、単位量当たりの大きさを使うと比べることができる。

<適用問題>

チ Aの自動車は、35Lのガソリンで700km走れます。
Bの自動車は、50Lのガソリンで800km走れます。
2台の自動車を次のように比べました。

Aの自動車	Bの自動車
$\square \times 35 = 700$	$\square \times 50 = 800$
$\square = 700 \div 35$	$\square = 800 \div 50$
$\square = 20$	$\square = 16$

これはどのような比べ方で考えていますか。

○適用問題をロイロノートで配付し、答えを入力して提出するよう伝える。

○悩んでいる児童には、答えの単位は何か、どんな距離を求めているのかを問い掛ける。

○提出ができた児童は、本時の学びが意識できるように、「どんな風に取り組んだら何が分かったか・できたか」に視点を当てた振り返りをし、ロイロノートで提出するよう伝える。

<振り返り>

S：いろいろな問題があったな。他にも単位量当たりの大きさを使って比べられるものがあるかな。

S：今まで相談したことがない人とも相談できた。説明が分かりやすかったからまた聞いてみたい。

3 板書計画

④



群馬と茨城

1人当たりの面積 (km²)

1km当たりの人数

お助けカード
青

赤



お得なコピー機→たくさんコピーできる

速くコピーできる

1分当たりの枚数

1枚当たりにかかる時間

お助けカード
赤

⑤

単位量当たりの大きさを使って比べられるか。

人口密度：1km当たりの人口のこと。



⑥

二つのものを比べる問題は、単位量当たりの大きさを使うと比べることができる。

Ⅱ 本時の学習（４／５）

1 ねらい 日常生活の問題（活用問題）を、単位量当たりの大きさを活用して解決している。

2 展開

主な学習活動 予想される児童の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
<p>1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。 （導入5分）</p> <div data-bbox="172 450 796 555" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><めあて> 学習したことを使って問題を解いてみよう。</p> </div> <p>S：人口密度が難しかったから練習しておきたいな。</p>	
<p>2 学習したことを活用して、問題を解決する。 （展開130分）</p>	<p>◎児童が必要感をもって問題に取り組めるように、取り組む問題を児童同士で共有し合い、何をどれだけ取り組むかを決めるよう伝える。</p>
<p>◎ア：一人で取り組んで児童</p> <p>○思考が行き詰まっている児童には、どこまで分かって何が分からないかを問い掛け、学び方（誰かと相談する、先生と一緒に考える、教科書で調べる）を選択できるように言葉掛けする。</p> <p>○問題が解けた児童には、同じ問題に取り組んでいる児童と解き方の説明をしたり、答えを判断した理由の確認をしたりするよう促す。</p> <p>○答え合わせをして正解ではなかったときは、なぜ間違えたかを考えて解き直してみるよう促す。</p>	
<p>◎イ：ペアで取り組んでいる児童</p> <p>○自分のペースで問題に取り組み、相談するときは答えだけでなく、解き方も話し合うよう助言する。</p> <p>○話合いが行き詰まっている姿が見られたら、他の児童にも相談したりデジタル教科書を活用したりするよう助言する。</p> <p>○答え合わせをして正解ではなかったときは、なぜ間違えたかを考えたり相談したりして解き直してみるよう促す。</p>	
<p>◎ウ：グループで取り組んでいる児童</p> <p>○自分のペースで問題に取り組み、相談するときは答えだけでなく、解き方も話し合うよう助言する。</p> <p>○話合いが行き詰まっている姿が見られたら、他の児童にも相談したりデジタル教科書を活用したりするよう助言する。</p> <p>○答え合わせをして正解ではなかったときは、なぜ間違えたかを考えたり相談したりして解き直してみるよう促す。</p> <p>○学習につながらない話をしている場合には、集中して取り組める形態にするよう促す。</p>	
	<p>○立式で行き詰まっている児童には、どのような単位量当たりの大きさを比べることができるかを問い掛け、「何当たりの何」を明記して立式するよう伝える。</p> <div data-bbox="831 1740 1425 1874" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆評価項目 活用問題を、単位量当たりの大きさを活用して解決している。＜ノート（思②）＞</p> </div>

<p>3 学習したことを基に、身の回りから単位量当たりの大きさが使われているものを考える。 (展開②10分)</p> <p>S：スーパーで肉を買うときに、お母さんが100gいくらを見て比べていたけど、あれは単位量当たりの大きさを使っていたと思う。</p>	<p>○前時で、身の回りから単位量当たりの大きさが使われているものを見付けられた児童に、どんなものがあつたか問い掛ける。</p> <p>○日常生活の多くの場面で単位量当たりの大きさが使われていることを理解できるように、他にもないか問い掛け、見付けたものを全体で共有する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆評価項目</p> <p>単位量当たりの大きさを活用できる場面を身の回りから見付けようとしている。＜ノート・発言(態②)＞</p> </div>
<p>4 単元の学習を振り返る。 (終末5分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>＜単元のまとめ＞</p> <p>単位量当たりの大きさを使えば、人口密度や量が違うときの値段などを比べることができる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○単元を振り返って、考えたことや分かったこと、チャレンジタイムでの活動に視点を当ててノートに記入するように伝える。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>＜振り返り＞</p> <p>S：単位量当たりの大きさを使って比べるには、「何当たりの何」を決めるのが大事だと分かった。</p> <p>S：今まで分からなかったけど、自分の周りには単位量当たりの大きさを使っているものがたくさんあることを知って、もっと見付けたいと思った。</p> </div>	

3 板書計画

<p>⑥ 学習したことを使って問題を解いてみよう。</p>	<div style="border: 1px solid red; padding: 10px; margin-top: 200px;"> <p>単元の課題</p> <p>単位量当たりの大きさを使えば、人口密度や量が違うときの値段などを比べることができる。</p> </div>
-------------------------------	--